

評価報告概要表

■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成 30年 2月 19日 (月)

■福祉サービス事業者情報

名 称	たちばな園	種 別	障害者支援施設
代表者氏名	施設長 田代 修一	開設年月日	昭和52年6月1日
設置者	山口県社会福祉事業団	定員(利用人数)	64名(56名)
所在地	〒742-2802 大島郡周防大島町大字由良1020番地		
電話番号	0820-73-1011	FAX番号	0820-73-1446
ホームページアドレス	http://www.sea.icn-tv.ne.jp/~tachi-en/		

■総 評

全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

◇特に評価の高い点

- ・定期的に第三者評価を受審することが法人の中で定着しており、サービスの質の改善に取り組む姿勢が組織全体で培われ、各種マニュアルが完備されている。また、定期的に自己評価を行う仕組みが定着しており、3ヶ月に1回の自己評価を通して、これまでの振り返りと、次期へ向けての取組を行い、ネットワークの共有ファイルで全員に周知している。
- ・管理者は指導力を発揮しており、利用者の高齢化・重度化・他害行為などへの支援を手厚く行い、基準以上の職員配置を実施している。また、利用者自治会活動や全員朝会、自主献立委員会など、利用者の意見を反映する機会を設けることで、利用者職員との共通認識ができています。
- ・作業棟では、利用者が陶芸や工芸品づくり、みかんの皮向きなどの作業を行っている。得られた工賃は利用者のやりがいとなっており、また地域との繋がりにも貢献している。
- ・地域における公益的な取組として、園だよりを配布する際に油良地区住民への声かけを行い、安否確認を実施している。また、地域貢献プラスワンの取組として、月に1回の道路のごみ拾いや、夏場の海岸清掃に取り組んでいる。

◇改善を求められる点

- ・利用者の人権の尊重という面では、利用者の高齢化・重度化に伴い、職員の専門性がより求められている。また、法人内での異動があるため、経験豊富な職員もおられるが、職員全体で、強度行動障害や重度の知的障害など障害の理解と、人権擁護の専門性を深めることがより必要とされる。管理者は職員に知的障害援助専門員講座の受講を勧めているとのことであり、今後、是非とも取り組まれることを期待する。
- ・大島地区の状況により、施設の近隣に福祉関係の専門学校等がなく、実習の受け入れに限られるとのことであった。しかし、社会福祉士、介護福祉士の資格を持つ職員もおられるので、そういった職員が実習指導者となり、学校等へ実習受け入れのPRをし、外部からの出入りを多くすることで、たちばな園や日中の生活介護等の利用促進へとつながることを期待する。
- ・また、近隣の事業所との交流や、ショートステイなどの利用促進に取り組んでいるとのことだったが、通所枠での生活介護の利用者がいないということである。音楽療法のように、地域の社会資源であるボランティアや人材を活用し、バラエティに富んだプログラムを行うことで、外部との交流を促進されることを期待する。
- ・会議録やマニュアル等、文書関係は整理されていたが、一部見直しがされていないものがあった。再度の見直しと併せて、日付の明記が望まれる。

■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

今回で、5回目の受審となりますが、毎回、当園の現状や利用者支援について、改めて振り返る貴重な機会となっています。

今回の受審では、前回の受審結果を踏まえた取組や、当園の利用者の状況や施設の現状について、今後のサービス向上の参考となる、指摘や助言をいただきました。

今後、評価内容について、職員間で共通認識を図り、改善に向けた取組を行うことで、これからも、「その人らしさを大切に」の理念のもと、より一層、福祉サービスの向上に努めて参ります。

評価報告概要表

■評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

I 福祉サービスの基本方針と組織	a	9	b	0	c	0	Na	0
<p>理念や基本方針について、パンフレットやホームページ、事業計画、広報誌、掲示板などで分かりやすく、見やすい工夫がされている。また、職員会議での説明が行われ、利用者・家族、関係者への周知が徹底されている。理念「その人らしさを大切に」の提示は分かりやすく、利用者のエンパワメントの視点に立ったものであり、法人の目指す所が明確になっている。</p> <p>事業計画については、透明性が保てるよう、それぞれの職種で検討したものを運営委員会で協議して修正を加え、再び職員で検討の上策定しており、職員・利用者の声が反映できるシステムになっている。中長期計画と当年の事業計画が運動しており、施設独自の目標に向け、組織全体で取り組まれている様子が窺えた。</p> <p>管理者の指導力については、経営分析やサービスの質の向上、人事考課の上でも確認でき、何事にも積極的な姿勢で取り組まれていた。</p>								
II 組織の運営管理	a	17	b	1	c	0	Na	0
<p>地域懇談会を通じたニーズの把握や、災害時要援護者の一時避難場所として指定を受けている等、地域に貢献している。地域のニーズに応えるため、施設の相談支援事業所が地域の相談支援事業所と連携し、ショートステイなどの受け入れや入所体験者への対応に尽力されている。</p> <p>また、経営分析を行い、改善すべき課題の抽出も行っている。待機登録者の減少、利用者の高齢化問題などへの対策についても、運営会議などで検討し、課題解決に取り組んでいる。</p> <p>前回受審の結果、実習生の受け入れについて、介護福祉士等の養成実習を受ける体制の整備が挙げられていた。養成学校が遠く実習受け入れ要請がない状況も理解できるが、社会福祉士・介護福祉士の有資格者がおられるので、実習体制を整備され、PRをすることで、地域との交流を深めるとともに、事業の活性化に繋げることを期待する。</p>								
III 適切な福祉サービスの実施	a	13	b	5	c	0	Na	0
<p>利用者支援マニュアルに沿ってサービス提供がなされ、個別支援計画はPDCAサイクルのもと、見直しもされている。感染症予防対策・防災マニュアルの整備も進み、避難訓練の実施も定期的に行われている。</p> <p>また、利用者自治会活動、食事の嗜好調査、献立作成委員会の実施など、利用者の意見を反映する機会や仕組みが確立している。各委員会活動の内容報告を職員会議で行い、検討もされている。</p> <p>利用者へのサービス提供に関する説明において、知的障害のある方が手に取って分かりやすい園のパンフレットの整備をするなど、自己決定ができていく方への配慮と工夫をお願いしたい。また、利用者職員のお互いの思いにずれが生じることのないよう、利用者の尊重の基本を再度、職員間で話し合われることなどにも取り組んでいただきたい。</p>								
IV 良質な個別サービスの実施	a	30	b	1	c	1	Na	2
<p>利用者が意見や要望を施設側に伝える場として全体朝会があり、管理者からも利用者や職員に思いを伝える場として有効活用されている。野菜作りやみかんの皮むき、陶芸、手工芸などの作業や販売を利用者の希望で実施されており、利用者のやりがいにつながっている。</p> <p>建物の構造上、難しいとは思われるが、利用者の高齢化・重度化が進む中、移動困難な箇所があったので、職員の負担を軽減するためにも、今後の改修を期待する。</p> <p>また、今後の地域情勢、制度改革に伴い、新たな事業展開(共同生活援助・通所の生活介護事業)の整備にも期待したい。</p>								